

令和6年度 南信州民俗芸能推進協議会 意見交換会 会議録

日時：令和6年5月28日（火）15：00～16：15

場所：飯田合同庁舎 1階 101会議室

出席者：別紙のとおり

【テーマ：協議会設立後10年間の振り返りについて】

≪事務局説明≫

当協議会は平成27年度に設立し「推進すべき9つの方向」を定め、その方向性に向けて事業を行って参りました。

今年度で協議会設立から10年目を迎えるということで、昨年総会の際にアドバイザーの先生方から、協議会事業の振り返りを行うべきではとご提案いただきました。このことを踏まえまして、今年1年間かけて「10年目の振り返り」を行っていきたいと考えております。

この10年目の振り返りにあたっては、関係する皆さまへのアンケート、アドバイザーの先生方へのヒアリングや委員会での確認等を行い、事業の振り返りや課題の整理を行っていきたいと考えております。

お配りしました資料は方向性に対して協議会が行った事業などをまとめたものです。

本日はこちらを基に意見交換ができればと思いますのでよろしくお願いいたします

(資料の説明)

＜アドバイザー小川先生＞

アドバイザーの小川です。

この取り組みにつきましては当初からかかわらせていただいております。

広域連合の第4次広域計画が一番の根底にあり、当時下伊那地方事務所、今の南信州地域振興局が関わってこの方向性を立ち上げ、その方向性に沿って事業を行ってきたかと思えます。

それから10年が経ち方向性を振り返らなければならない時期に来ています。

私の方から4つのテーマでお話をさせていただきます。

まず1つ目は、この協議会を立ち上げる際に各保存会の現状調査をしっかりと行っており、データも残っていると思います。これは10年前に民俗芸能を継承する人たちが自分たちの行ってきた事に対しての将来性をどの様に認識しているのかということのヒアリング等の調査を行ったものです。

一方そのころから地域文化の観光資源化が進んでおり（国の構想）地域の活力を保持するため、外部の方に来ていただきその文化に触れていただくことの関係性をどの様に作っていくのが重要でありました。

このことはリニア中央新幹線の長野県駅が飯田にできることに大きく結びついています。

10年取り組んできた中で、保存会の方からは「自分たちが行ってきたことが5年先も続けられるかわからない」等の将来を案ずる意見が多く出ていました。

また、パートナー企業制度もヒアリングの中で、お祭りに参加したくても2・3日連続で

休暇取得ができない等の意見が出た際に、どうしたらよいか考え、企業へ従業員がお祭りに参加する際に有給休暇が取りやすいような体制を作ってもらうこと目的にパートナー企業制度が始まりました。

今日の資料では9つの方向性に対して協議会が行った事業は提示されていますが、当初の資料を見ながらどの様な成果が上がったのかを時間をかけて、何名かで詰めていく必要があると思います。

また、それに応じてそれぞれの保存会へ成果としてどのようなことがあるのかを確認しながら、9つの方向性をもう一度考え直す必要があると思います。場合によっては組み立てなおす必要もあると思います。

10年経って今後も同じ方向性で良いのか、成果として定量的な成果と定性的な成果の面があり、ファンクラブが何人増えたかは数値ですぐわかるが移住してきた方がどのようにして関わってくれたのか等定量的にはとらえにくいことを1年間かけてとらえ直し、この協議会の成果をもう少し明確にしておくべきであるかと思っています。

それに応じて取り組む課題として重点領域を設けることを考える事も必要だと思います。すべてをやるということは予算的にもマンパワー的にも困難な状況であり、9つの方向性を生かすにしても重点領域を選択し協議会の新たな方向性を考えるべきだと考えます。

つまり、協議会の成果を明確にし、9つの方向性を再検討すると共に予算とマンパワーを考えて重点領域を設定するべきだと思います。

2点目は、南信州のパートナー企業制度は全国が関心を示しています。

これは南信州の方々以上に、他の地域の方々はどうな成果があったのか関心を持っているということです。

私が関係するところでいうと、宮崎県ではパートナー企業制度を参考にしながら神楽のサポーター制度を作成しています。

福岡県ではもう少し広くして、伝統行事お助け隊という制度を作成しました。

各都道府県、自治体が地域社会の活力を維持するため、その中核にこの無形の民俗芸能、文化財において何らかの制度を作り行政支援をしていこうという動きは今後も出てくると思います。

そこで、パートナー企業制度の支援の事例集、どういう支援を行ってどの様に助かったのか、具体的な事例集を作成するべきだと思います。

この制度もできた時から、どのように実質化していくのかが大きな課題でありました。

広域連合や地域振興局の方でも各企業に問い合わせその結果を各保存会に投げかる、あるいは保存会から要望を聞く等いろんなことを行っています。

それらを整理するためにパートナー企業制度の事例集を作るべきだと思います。

3点目としましては、南信州の民俗芸能はもっと積極的に国の重要無形民俗文化財の指定に向けた取り組みや、県の指定民俗芸能文化財の取得に取り組むべきだと思います。

例えば、清内路の花火については立派な学術書はできたが指定がありません。それだけで

なく清内路には歌舞伎の資料も残っており、有形無形共に外部に発信する魅力というのは、花火以外にもあります。

また、人形芝居について記録選択まではできているが指定は取れていない。国の指定を受けることによって更に魅力が具体的に全国発信されていきます。

つまり、南信州が持っているポテンシャルや魅力の確立が進んでいない為、作成してきた学術的な資料等を社会的に位置付けて南信州の地域文化としての魅力をもっと強力に押し出していく必要があります。

清内路花火や人形芝居、かけ踊りは記録指定になっているので、長野県と広域連合に加盟している市町村がもっと積極的に文化財指定を行っていくべきです。

今は文化財の指定を行っても予算的に多大な負担がかかるわけではないのですし、むしろその指定になることによって地域社会の方々が改めて自分たちの文化に対して再認識していただけて、魅力発信ができていくと思います。

これは、行政がもっと主体的に取り組まなければならないことだと思います。

飯田下伊那郡内の市町村の動きについて、広域連合と振興局で無形の民俗文化財に対して協議会を設立し活動していることで、市町村が逆に積極的に取り組んでいないのではないかという印象を持っています。

広域連合は各自治体の首長が入っている為、もう少し自分たちの市町村の文化をどうやって外部に魅力発進していくのかを考えるべきではないかと思います。

この魅力発進は観光や移住にもつながり、有形無形の文化財のコラボによって新たな産業振興が生まれる可能性も出てくると思います。

その突破口として国指定、県指定あるいは市町村の文化財指定を行ってできるだけ多くのものを魅力発信として制度の上に乗せていくという事を考える必要があります。

ただ一方で考えなければいけない事は、文化財保護法で扱いにくいようなものをどうするか、この協議会の中でいろんな手立てを考えて発信していかなければならないと思います。

4点目に、ポータルサイトの南信州民俗芸能ナビは非常に評判が良いです。各地、特に都道府県ではこのようなポータルサイトを作りたいというところがいくつもあり、その時に南信州のサイトが一つのモデルとなっています。

ただ、サイトの運営はマンパワー的な面でかなり大変で、けして片手間にはできないことではないと思います、ここまで維持してきた事は素晴らしいことだと思いますので、このサイトをしっかりと位置付けていくことが必要だと思います。

このサイトとSNSをどうリンクさせるのか、ファンクラブの数値は上がってきており、若い世代はホームページを見るよりSNSで情報を得る方が一般的になってきています。

よって、ここでのリンクをどうやって作っていくのが大事だと思います。

つまり、魅力発進の重要な場であるここをもう1段階レベルアップしていくことが必要だと思います。

前から話をしていますが、サイトのそれぞれのタイトルだけでも英文をつけてもらいたいと思います。全てを英文化することは難しいと思いますのでタイトルだけでも英文化し SNS とリンクさせて発信していくべきだと思います。

最後に、私が 10 年間関わってきた感覚としては、良い素材はたくさんあるが、広域連合と振興局任せになり、市町村の動きが異様に鈍いと感じています。

ここを 1 段階アップさせていくため、協議会は各市町村へ 1 事業何か行っていただくように話をする等、広域連合や振興局に任せっぱなしにならないようにするべきだと思います。

《アドバイザー宮田先生》

アドバイザーの宮田です。

9 つの方向性に対して行った事業についてまとめられているので、これからの作業としてこれを基に自己分析や自己評価を行うべきだと思います。

それに付随して小川先生からお話の合った方向性を見直しやパートナー企業の事例集等の広く活動事例を周知できるものをそろえるべきだと私も思います。

それから、10 年間で起きた大きな変化として、前は WEB が中心で SNS は個人的な趣味だけのものだという感じですが、今は若い世代を中心に SNS が主流となっています。その中で SNS をどう生かして発信をしていくかは重要なことだと思います。

協議会の X のフォロワーを見ると 1,000 人まで達していません。これだけ魅力ある内容で数千、数万人までフォロワーが増えていない。先ほどフォロワーを見てみたところほとんどが地元の方で、外部の人は半分もいないように思いました。なぜ拡散しないのかを考えた時、投稿の際にハッシュタグをつけていないのが原因ではないかと思います。ハッシュタグを付けない場合は南信州の民俗芸能に興味があり投稿を見に来てくれる方にしか伝わらないので、民俗芸能や芸能といったハッシュタグをつけることで、広く芸能に関心を持った人にもタイムラインが流れるようになり、そこから獲得できるフォロワーが増えると思います。

また、先ほど小川先生から英文化をという話がありましたが、広告内容は英文化する必要はないと思います。今は海外の投稿もスマホで翻訳して見られますので内容を英文化する必要はないが、ハッシュタグに英文をつけることで海外にも直接広報ができるようになると思います。

他には、この 10 年の中で起きた大きな出来事とすると、やはりコロナがあると思います。10 年間の振り返りの中で南信州の民俗芸能へのコロナの影響を総括しておくことは必要だと思います。

今後も同じような事が無いとは言い切れないので、このコロナをどう乗り越えたのかを協議会として残しておくことが必要だと感じました。

文化財指定については制度上地方からの推薦式ではないですが、非常に熱心なところで

あれば国もそれに応じて動いてくれると思います。

魅力的な民俗芸能が多いので今の指定選択だけではもったいないと思います。

最後に協議会立ち上げの際にリニアということが1つありましたが、それが当初計画から10年ほど延びる計画となりました。これは追加で10年ブラッシュアップする期間を貰えたということなので次の10年に向けて整理をしていただきたいと思います。

私が各地で講演をする際は、必ずと言っていいほど南信州の取り組みの紹介をしております。今年の1月には自民党の若手議員に対する研修会の際に南信州の取り組みを紹介させていただきました。それだけ全国から注目されていますので、これまでの10年をしっかりと検収してブラッシュアップしていければと思います。

《アドバイザー櫻井先生》

アドバイザーを務めさせていただいている櫻井です。私は飯田市美術博物館の学芸員としてこの協議会の立ち上げに携わってまいりました。

私が各地で講演会をする時は必ずこの取り組みについて触れており、南信州で行っている素晴らしい取り組みであります。また、パートナー企業制度も全国的にも注目されている制度であると伝えております。

ただ、振り返ってみるとやはり道半ばであると強く感じております。

それは、最初に協議会を立ち上げた際は推進委員会が中心となって企画を考えて協議会の承認を受けて進めていく計画でした。

もう一つ地区推進組織を各地区で作ってそこで実際の事業を行っていくという構想がありましたが、今は全く手がついていない。

それと、この協議会等で話し合ったことが保存会の一般の会員の皆さんに、あるいは、市町村の中に届いておらず、協議会の中だけの話になりがちなのがあると思います。

この協議会の事業は県指定又は国の選択指定の文化財を中心に行っているが、そういったものがない市町村はこの協議会に参加していません。

自分のところは関係ないという感じになりがちですが、南信州の宝として南信州全体で行っていくようにしないといけないと思っております。

特に市町村については、市町村独自の文化財指定を進めて行く、あるいは、民俗芸能に対する学習会を積極的に行い、住人の皆さんに理解していただき、外へ発信していただくことが必要だと思います。

南信州は県や国の指定選択の文化財は多いといわれているが、市町村ごとの民俗芸能を見ると遅れているので、もっと積極的に進めて行く必要があるのではないかと思います。

神楽のユネスコ登録に向けた支援や国の選択になったままのものを進める、新たに県や国の指定に挙げていく活動は必要だと思います。

この事業が広域連合と地域振興局だけでおこなっている部分が多いと感じますので、各保存会が自分たちは何がしたいのかをもっと積極的に出してそれに向かって取り組んでい

くことが必要ではないかと思えます。

過去に新野の雪祭りや天龍村の霜月神楽の3か所でフラッシュ禁止という活動を行いました。これは南信州の民俗芸能をより良い環境で見ていただく場を作る為に行いましたが、フラッシュに限らずもっと魅力的なものにしていく工夫を全体で考えていく必要があると思っています。

最後に協議会の9つの方向性は冊子になっておりますので、振り返りもこのような形でしっかりとまとめておく必要があると思えます。

県外からも注目されているのでそういったところにも南信州の活動が伝わるようなものが必要だと思えます。

《南信州地域振興局長》

小川先生からご提案いただいたパートナー企業制度の事例集の作成について、その通りだと思えました。

我々はどちらかという企業を増やすということに目が行きがちですが、パートナー企業制度の真の目的は企業がどのように地域の資源である民俗芸能に対して支援をしたかということと思えます。事例集の作成は地域の方が「こういう支援をしていただいて非常に助かった」「保存継承につながった」というところを掘り起こして、各企業に「こういうことを望んでいます」ということを伝える営業ツールともなっていくと思うので、制度を立ち上げ取り組んでいる地域振興局としてもしっかり考えていきたいと思えます。

方向性に対していろんな取り組みを行ってきたかと思えます。地域振興局としても元気づくり支援金を活用してこの取り組みを側面から支援しているのですが、リソースもこれから限りが出てくるという中で、今まで通りの支援をしっかりと継続していこうという思いも有つつ、別の財源手当てということもしっかり将来を見据えて考えていかないといけない時期であると思っています。

そういう意味では、パートナー企業からの協賛金や寄付というのを継続していく必要があると共に、ファンクラブを作って地域内外の方々がこの地域の民俗芸能のファンになっており、そういった方々の思いも取り入れていきたいという意味からクラウドファンディング等を今から少しずつでも行っていくことが大切かと思えます。

いろんな事例を我々も確認しながらこの協議会につなげていけたらいいと思えます。

《アドバイザー小川先生》

財源の問題は非常に重要な問題であり、どこまで行政が財源確保できるのかというのは未来永劫あるとは限らないと思えます。

去年も申し上げた企業版ふるさと納税制度を市町村は活用すべきだと思えます。

下伊那の市町村のテーマを見ると文化的なものが含まれていません。

もう少し積極的に財源確保の面で企業版ふるさと納税の活用に自治体が動くべきだと思います。

各市町村は文化継承のコスト負担をもっと考えていかなければいけないと思います。

クラウドファンディングも一般化してきていますが、もう一方で企業版ふるさと納税ということも検討して、地域の文化継承の財源を確保する努力を見せるべきだと思います。

《南信濃霜月祭保存会針間会長》

伊那谷民俗芸能団体連絡協議会という団体があり、60団体程が加入しております。

そういった皆さんの中で自覚という点で盛り上がりが出ていないと感じています。

その皆さんの環境を見ますと少子化と高齢化、担い手の問題があり、子供を当てにしても少子化によりそもそも子供が少なく、高齢化の点で離れていく人もいます。そういった時代の流れの中で担い手の確保について、この協議会で引き続き考えていってもらいたいと思います。

コロナが収束して萎えていたものが復活して頑張っていこうとそれぞれが自覚している中で、保存会も頑張るが皆さんのご協力もお願いしたいです。

もう一点、宗教的な面で旅行会社がインバウンドの企画を持ってきてくれますが、行政の観光的な部分で手を引かれてしまうので、その整合性を整えてもらいたい。

見てくれる人がいてくれた方が現場的にはありがたいですし、それに頼るようなことは無く自分達でも頑張っていきたいと思っていますので、そういった点でも協議会で話し合っていたきたいです。

《南信教育事務所長》

今回初めて参加させていただきます。

今子供の参加という話があり、また、方向性の3.4辺りに関わってくることだと思いますが、中学校の部活の地域移行の動きも視野に入れながら考えていくと良いのではと思いました。

頭の片隅にもある程度で良いと思います。

具体的には中学校に部活動があれば入っていたかもしれない子供が中学校で部活が無いために地域の活動へ目を向ける、という具合が今までよりは大きくなると思います。

地域にやりたいことがあればやるかもしれないし、無ければやらないかもしれない、また、違う活動に目を向けることも有るかもしれないという状況が生まれるので、そこで民俗芸能に目を向ける子供も少し増えるかもしれません。

そういったことも視野の片隅に入れておく事が大切だと思います。

【終了】